

# 薪需要基礎調査のご報告

川場村では、木質系エネルギーの利用を積極的に支援し、森林資源の有効利用を推進しています。川場の材を薪として日常で活用することは、村の木質資源の有効活用や里山林の保全管理につながります。利根沼田森林組合では、薪割作業の軽減し薪利用を促進するため、1月より電動薪割機の貸出等を開始しています。このような取組を含め、薪などの木質資源の需要増加・活用促進のヒントを得るために、聞き取り調査を行いました。お忙しい中ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

## 1、調査方法

実施主体：川場村（担当：村づくり振興課）

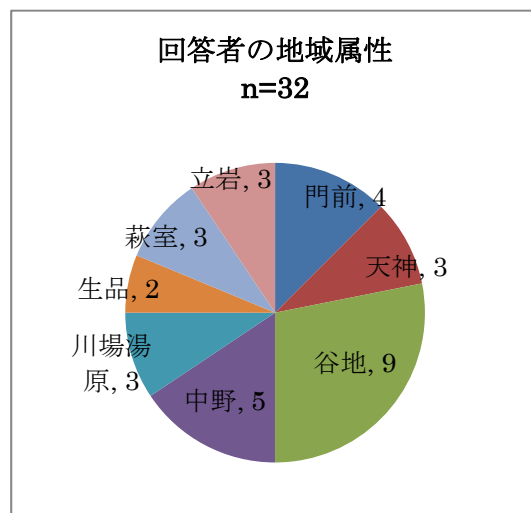
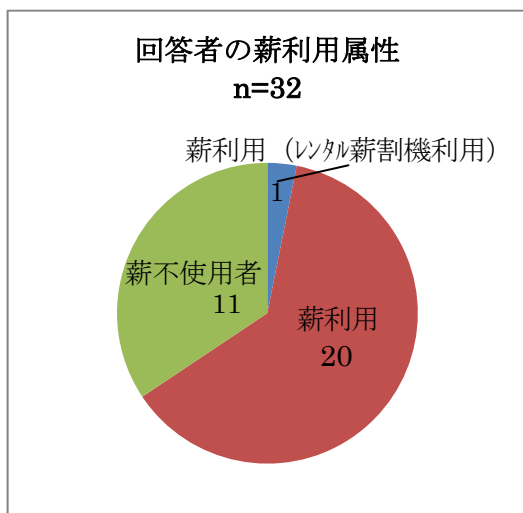
調査期間：平成22年12月～平成23年2月

調査手法：訪問による聞き取り調査

調査内容：・薪の用途、入手方法、使用量、薪割、利用しない理由  
・薪利用の促進に関する意見や活用のヒント

調査対象：村内 薪利用者 21名、薪不使用者 11名

薪を利用しているお宅と利用していないお宅の両方に、お話を伺いました。地域については平均的になるよう配慮しました。



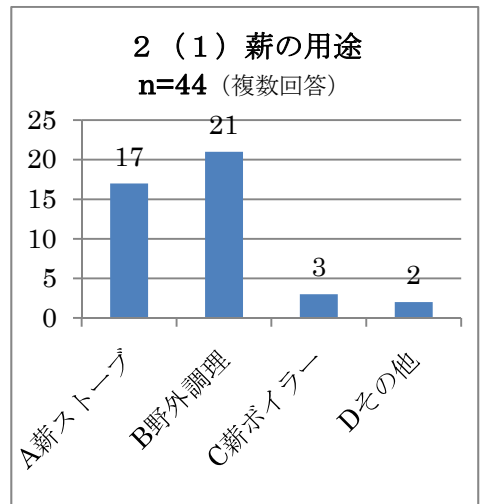
## 2、調査結果（概要版）

### （1）利用法

薪利用 21 件中、薪ストーブは 17 軒でした。灯油との併用も多く、薪で暖まるまでの 2~3 時間だけ石油ストーブを使う、日中留守になるため朝は石油ストーブ・夜だけ薪ストーブを使う等の工夫をされています。夜に薪ストーブを使うと朝までの暖かさが残り、10℃以下にはならないそうです。日中の火事の心配も低くなります。また煙突の設置方法やプロペラをつける等の一工夫で、薪ストーブ1つで家全体が暖まるそうです。

調理では、お餅、味噌豆、赤飯、うどんなど、燃料が大量に必要な煮炊きに使用しています。仲間と薪を持ち寄って味噌豆を煮る、という方もいました。薪は火力が強く、ゆっくり煮る調理に適しているとのこと。

殆どの薪利用者が、炭（熾き）は掘りごたつに、灰は果樹園や畑の土壌改良材として、有効に二次利用しています。



### <主な回答コメント>

#### ○薪ストーブ（17件）

- ・ 新築した（高気密・高断熱）なので、薪ストーブ一つで家中が十分暖まる。2階は暖房が不要。
- ・ ストーブは土間に置いてあり、天井にプロペラをつけて部屋全体を暖めている。
- ・ 煙突が2階までまっすぐに伸びているため、部屋中が均一に暖まり、洗濯物もよく乾く。
- ・ 灯油と併用、朝は石油ストーブ、夜だけ薪ストーブを使っている。
- ・ 薪で家中を暖めると3時間くらいかかるので、その間はガスを併用している。
- ・ 夜のみ薪ストーブを使っている。翌朝まで室内に暖かさが残る。使わないととても寒い。朝は、家族全員出かけるため石油ファンヒーターを使っている。

#### ○野外調理（21件）

- ・ 年末の餅つき、うどん、お赤飯、味噌豆。
- ・ カマドタイプを使用している。盆や正月等の人が集まる時のみ使用。赤飯、餅等を調理する。
- ・ お餅を蒸かす時、こんにゃくをゆがく時、味噌豆を煮る。

#### ○灰や炭の二次利用（16件）

- ・ 炭を掘りごたつに利用。その日に使用した炭の上に灰をかぶせておいて、翌朝に炭を補充する時、前日の炭のかけらを掘り出して1番上に載せておくと、補充した炭に火が移り、火を絶やすことなく使用出来た。
- ・ 酸性を中和するため／石灰の代わり／豆を作るときの良い肥料になる／雪を溶かすため／
- ・ 毎日、肥やし袋につくくらい（15%）出る／灰だけで月に30%出る／ etc.
- ・ 炭にしてからバーベQ／炭壺にとっておいて魚を焼くときに使う



#### ○その他

- ・ コンニャク芋保管庫の暖房（ダルマストーブ）
- ・ いろいろ：過去に利用、将来いろいろ部屋をつくりたい

## (2) 使用量

### <回答の一例>

用途	使用量
薪ストーブ、調理	1日約 10 kg 1ヶ月 生木で 500 kg程 (軽トラ 1 台分)。
薪ストーブ、調理	年間で 幅約 180 cm×3段 の薪小屋いっぱいくらい
薪ストーブ (冬期間は 24h 燃焼) 野外調理 (うどん、赤飯、味噌豆)	1日で一輪車 2 台分 5ヶ月 (11 から 3 月) で一輪車 300 台分
薪ストーブ (冬期間は 24h 燃焼) 調理、 風呂ボイラー	年間 2 斗× 5 斗× 4 5 cm
薪ストーブ (冬期間は 24h 燃焼)	丸太で 15 本
薪ストーブ (夜のみ、朝は灯油)	9 0 cm (3 尺) × 7 0 本くらい
薪ストーブ、調理	1日 コンテナ (5 0 cm× 3 0 cm× 3 0 cmくらい) 1つ
薪ストーブ (灯油と併用)、調理	60 束
薪ストーブ、調理	70~80 束
薪ストーブ、調理 (餅)	5 立米



一冬で薪小屋いっぱいくらい。  
小屋は幅 180 cm くらい、3 段になっている。



年間 2 斗× 5 斗× 4 5 cm 分を使用



1日で一輪車 2 台分。11~3 月の 5 ヶ月で 300 台分。冬期間は 24h ずっと燃やし続けているため大量に使用する。

### (3) 薪割作業と薪の保管について

薪利用者は殆ど、自宅で薪割作業をしています。  
 薪割機の利用は3件でした。  
 薪の乾燥・保管は、雨風をあてずに1年ほど置き、長くとも2～3年のうちに使いきるのが良いようです。

#### <主な回答コメント>

##### ○自宅で行う

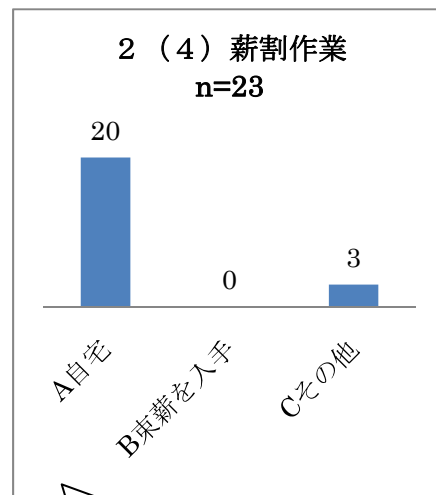
- ・ 冬に伐採し、3～4月に割って、次の冬に使っている。  
2～3日頑張れば、1年分の薪は割れる。
- ・ チェーンソーで玉切りしてから斧／ヨキで割る
- ・ 薪割機：自前で持っている・・・1件  
森林組合・林業会社から借りる・・・2件

##### ○その他

- ・ コンニャク貯蔵箱の古いものを分解して再利用

##### ○薪の保管について

- ・ 薪は天然乾燥が良い。雨風を当てずに、1年置いてから使う。  
4～5年も置いたものは中がスカスカになりすぐに燃え尽きる。
- ・ 自宅には、薪を3年分ストックしてある。
- ・ 自分の家では、常に2年分の薪をストックしている。
- ・ 乾燥させておくと、カミキリムシなど越冬中の虫がつく。  
部屋の中に薪を持ち込むと、部屋中が粉だらけになる場合がある。



#### <薪割は楽しい！>

- ・ 薪割はストレス発散に良い。
- ・ 薪割や焚き付けは、経験がないと難しいが上達してくるのも楽しい。
- ・ 年をとっても薪割が大変になるとは考えていない。ずっと使い続けたい。



下屋で保存乾燥中の薪



薪小屋

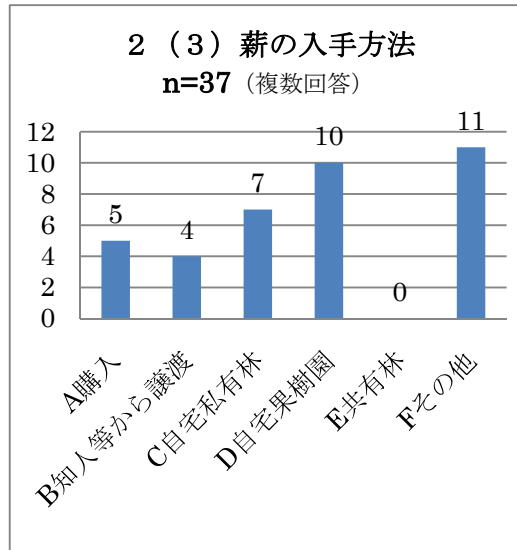
#### (4) 薪の入手方法

私有林の活用は7件でした。そのうち2件が、薪山としてナラ山を区分けし、順繰りに手入れ・伐採をしています。

果樹の利用では、春に剪定した枝はその秋には使えるそうです。果樹園をしていて、取りにこられる人に譲っている方もいます。

購入の場合は、森林組合や村内林業会社から丸太で購入したり、河畔整備などで生じた支障木等を格安で購入しているという回答が複数ありました。またキノコのほだ木生産のために山（立木）を買い、余りを薪にする例もありました。譲渡では、山作業や庭木の手入れの手伝いをした際にもらう、造園業者から剪定枝や伐採木（廃棄すれば有料）をもらう、などの例がありました。お得に手に入れるには、普段から、薪を使っていることを方々に知らせておくとういようです。

その他は、利用しなくなった桑や梅の木、破損した貯蔵箱の再利用、昔伐採したものの残り、などでした。



#### <主な回答コメント>

##### ○自宅私有林

- ・ 家の裏手に私有林（薪専用の山）があり、その年に伐採する木は、どの部分から伐採するか決まっている。山を一巡する頃には、また薪材として伐採が出来るくらいに木が成長している。伐採した木はそのまま山に置いておき、山に雪が積もってから（斜面が雪で滑りやすくなる状況を利用し）、あまり労力をかけずに、山から薪材をおろしている。
- ・ 自宅私有林は、部分的に皆伐し、順番に効率良く切っていこうと思っている。ナラは火力が強いので、ナラを切って、薪にする予定である。
- ・ 山を手入れして出る雑木 / スギ・マツの間伐材



伐採して山から滑り降ろした材



→ 2段に整然と積まれた薪（薪割は手作業）

## ○購入

- ・ 森林組合で河川掃除などをした時にでる雑木を買う。
- ・ 林業会社で2トントラック一台分のナラの木を購入。料金は約2万円。知人のため通常より安価で入手。
- ・ 森林組合に勤めている人を通して格安で仕入れた。(1本あたり1寸80cm、450円)
- ・ 林家から直接購入している(1本90cmで200円、配達料は1本あたり50円くらい。)
- ・ 山を買って伐採し、ほた木の残りを貰う。

## ○知人等から譲渡

- ・ 薪の入手情報を得るために常にアンテナを張り巡らしている。
- ・ 薪を使っていることをあちこちに宣伝しておく、雑木や廃材が出た時に声をかけてもらえる。
- ・ 何軒か知人の私有林の間伐作業や庭木の手入れを手伝っていて、不要な枝や材をもらってくる。
- ・ 造園屋から剪定枝や伐木をもらう。廃棄すればお金がかかるので一石二鳥。



剪定枝を束ねた ぼや

## ○自宅果樹園

- ・ リンゴの剪定枝、間伐材。春に剪定したものは秋に利用できる。

## ○その他

- ・ 庭木の剪定枝
- ・ やめた桑畑や梅畑の伐採木
- ・ 再利用：壊れたコンニャクの貯蔵箱／田んぼの「はって」／養蚕のかご
- ・ 昔伐採した残り



田んぼの「はって」

## <以前の里山利用>

- ・ 川場では、昔は、入会林野があり、山に自由に入ることが出来、薪材を調達していた。山林があることで、生活が成り立っていた。
- ・ 中野地区では、「山の口(くち)」という期間があって、12月1日から、翌年の八十八夜までの間は、山林の所有者に断らなくても、自由に山に入って、枯れた枝のみだが集めることが出来た。山を持ってない人に対しても山持ちの理解があった。
- ・ 米一俵と一冬用の薪を交換していた。もしくは、天神共有林の木材を40数件で分けた。
- ・ 他所の山の間伐を手伝って、日當代わりに雑木をもらっていた。今はそんな機会がない。
- ・ 昔は、どの家にも家畜がいた。夏の間は、落ち葉を集めやすいように、山の手入れをし、秋に落ち葉を集め、冬期間は、家畜用の敷草にしていた。
- ・ クズのツルを、薪やボヤを束ねるヒモ代わりに使っていた。山に入って、ツルを手繰って、利用していた。今のよう、木にからみついているようなことはなかった。
- ・ 結婚した翌年に山を買った。子供が3人いるが、生まれる度に植林した。下草刈りなど年に2回は手入れしていたが、最近は忙しく、ほとんど手入れはしていない。
- ・ 50年前頃は、自分の山から木を切り出し、薪材として、沼田の商店に卸していた。
- ・ 昔は、近所の雑木林で、ほた木に使用する余りや、ぼや(伐採した枝)を譲ってもらった。

## (5) 薪ストーブのランニングコスト（暖房費、メンテナンス経費）

薪を自前または村内で調達する利用者は、薪利用の方が暖房費が安くすむ（一冬1万5千円～2万円）という回答でした。ホームセンター等で薪（束薪800円ほど）を購入すると、逆に石油よりも高くなるようです。

また、煙突のメンテナンスに、業者に頼む場合は1年に2万5千円～3万円ほどがかかるということです。掃除をしないと火事の原因となります。掃除用具を購入し自宅で行っている例もありました。

### <主な回答コメント>

#### ○燃料費・暖房費

<薪のほうが安い>

- ・ 朝から晩までつけっぱなしでも薪の方が燃料代はかからない。（自宅果樹園→自宅で薪割）
- ・ 薪は石油より安価に入手出来る。（林業会社より購入→自宅で薪割）
- ・ 床暖房とファンヒーターで月2万円程。知り合いの薪ストーブの家は一冬で2万円程と聞いた。
- ・ 薪を使っていたときは、一冬で1万5～6千円程使ってた。
- ・ 暖房は薪でまかなっているので、ガス代は、一月当たり、基本料金くらい。（約2,000円）
- ・ 2トントラクター一台分のナラの木約2万円。林業会社から購入。知人のため通常より安価で入手。（再掲）
- ・ 1本180cmで450円。森林組合に勤めている人を通して格安で仕入れた。（再掲）
- ・ 1本90cmで大体200円。自宅までの配達料1本当たり50円くらい。林家から購入。（再掲）

<石油のほうが安い>

- ・ ホームセンター等では、2週間くらいで燃やす量が7,000円。→石油より割高。
- ・ 薪を買うと束800円くらい、一日中燃やすと、4,000円/日ほど。

#### ○煙突掃除

- ・ 煙突の掃除は1年に1回、2万5～6千円。掃除しないとタールが付着し火事の原因になる。
- ・ 煙突の掃除は2年に1回。業者に頼んでいる。費用は6万ほどかかる。
- ・ 煙突の掃除は1年に1回、秋口にご主人が行っている。掃除道具は専門店で購入した。
- ・ 煙突の手入れの仕方がよくわからなかった頃は、一度、煙突内部にヤニが溜まってしまい、煙が逆流し、夜中に部屋中真っ白になり、ヒヤッとする時があった。それ以来、汚れのたまりやすいところに気を付けて、こまめに掃除し、煙が逆流しないようにしている。



太い薪は夜間用（長時間火持ちが良い）、細い薪は日中用に使う。暖房は薪でまかなっているのでガス代は基本料金くらい。（S家）



煙突のメンテナンスは年に一回、2万5～6千円かかる。タールが付着し火災の原因になる場合があるためプロに任せている。（M家）

## (6) 薪ストーブのイニシャルコスト (ストーブの性能と価格、設置工事)

回答コメントから、ストーブの特徴をひろいました。

ダルマストーブ (鋼板) は、値段が安くすぐ暖まるが、耐用年数が短く、表面が熱くなり危険。鉄製のストーブは、値段が高くゆっくり暖まるが、暖房効果が持続する。(対流式は) 火事の危険性が低い。

### ○ストーブ本体

ダルマストーブ	鋳物ストーブ
内窓式、値段は1万4~5千円。耐用年数4~5年。値段の割に長持ちである。	・自宅のスウェーデン製のストーブは煙突も含め、100万円程。 ・20年前に購入したスウェーデン製のアンデルセンストーブは、本体40万、設置費40万
穴が開くため、数年に一度交換の必要がある。煤払いが面倒。	鋳物は、蓄熱量が多い。暖まったら、あとは、チョコチョコ燃やしていれば良い。
鉄板が薄く、伝導性が高い。すぐ暖まるが、長時間持たない。穴が開くため2年に1回くらい買い換えが必要。	空気の入出力口を閉めれば、「おき」はまだ燃えているが、火事の心配はない。
火力急激に暖まる。触るとヤケドする。ストーブの周囲も熱い。	対流式のストーブは、熱くなりすぎないので、子供達もヤケドの心配が少ない。

- ・ホームセンターで販売している5~6万円のストーブでは、薪を大量に消費してしまう。高価なストーブの方が、薪の使用が経済的である。
- ・薪ストーブを取り入れたいなら、高いストーブにした方が良い。初期投資はかかるが、買い換え・メンテナンス・毎日の手間が少なく済む。燃焼の効率が良く、灰の始末が楽である。

### ○煙突、設置工事

- ・家の中では、煙突は出来るだけ長い方が、部屋中が暖まる。その分、掃除は大変になるが。
- ・燃焼した煙は上へ行きたがるので、なるべく横の部分が少なく上に伸びるタイプが良い。
- ・煙突は真上に出すのが良い。しかし壁出し型が現実的である。縦の長さは横の3~4倍必要。
- ・煙突の向きによっては、風が中に吹き込んで来て、よく燃焼出来ない場合がある。



今の薪ストーブは火事の心配はない。空気の入力口をふさげば、すぐに消火出来る。



冬期間は、24時間つけっ放し。寝る前に太い薪をくべておけば、朝になっても火種は残っている。

## (7) 薪利用のデメリット / メリット

メリットよりもむしろデメリットについて多くのご指摘・意見をいただきました。

### <デメリット・薪を利用しない理由>

薪を利用しない理由として多かったのは、1つは「危険性」でした。日中の火の管理はもちろん、大量にできる灰の保管中におこる火事、ヤケド等の危険も挙げられ、家の新築のときに薪ストーブを断念したという例もありました。危険性の欠点について薪利用者は、夜だけ薪ストーブを使う、燃焼効率がよく灰が少ないストーブを使う、対流式ストーブ（表面があまり熱くならない）を使う、などの工夫をしています。

多かったもう1つの理由は、「手間がかかる・不便」という点です。薪の調達、薪割、煙突掃除、灰の始末などの手間暇がかかります。一方、薪利用者の中には、こういった手間さえも楽しみながら薪ストーブを使っている例もありました。

その他、今の高气密高断熱の家にはあわない、薪の良さはよく分かるが今から導入するには大幅なリフォームが必要で現実的でない、値段が高い、といった意見もありました。「薪ストーブを焚くと乾燥して柱が曲がる」という意見は、「煙でいぶして真っ黒になることで雨漏りを防ぐ」というかつての木造家屋での煙の効能に対する意見とは対局的で、これも家のつくりの違いに起因するものと考えられます。

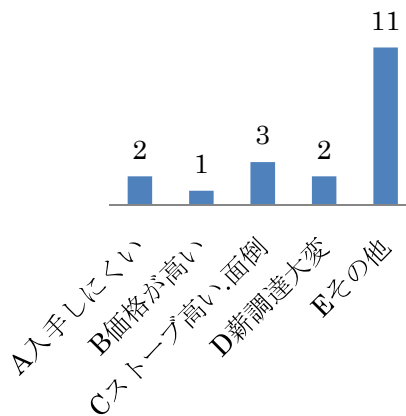
薪の調達・保管方法が分からない、という意見については、今後改善が可能と思われます。

### <メリット・薪の良さについて>

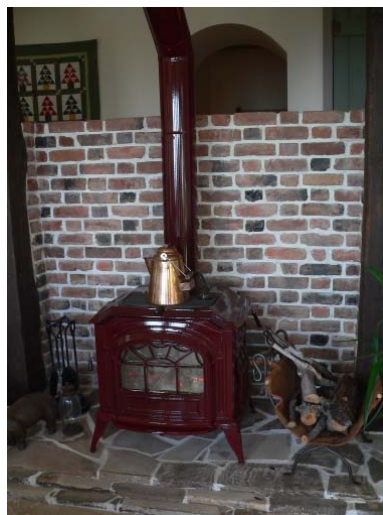
最も多かったのは、遠赤外線効果による「陽だまりのような暖かさ」でした。「家全体があたたまる」「体の芯から温まる」「暖かさが長時間もつ」など、使わなければ分からない良さだとのことでした。また今の生活スタイルに薪の良さを取り入れるために、石油との併用や使用時間などで工夫をされている利用者が多いようです。

他に、コミュニケーションの場になる、優雅なステイタスの象徴、災害時等の備え、温暖化防止に貢献する、等の意見がありました。

### 4. 薪を利用しない理由 n=19



玄関の薪ストーブはお客をもてなす場。完全燃焼するので1日燃しても灰はちりとり1杯。



「薪ストーブはその家の顔になる」

<主な回答コメント> (件数は選択肢以外の回答も含む)

デメリット、使わない理由	メリット、薪の良さ
<p><b>○危険</b> 11件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日中家をあけることが多く、火事が心配。</li> <li>・ 大量の灰が出る。灰の不始末や保管中の火事・一酸化炭素中毒が心配</li> <li>・ 火が完全に消えないと、灰が熱くて始末が出来ない。朝、すぐに火をつけられない。</li> <li>・ 小さい子がいるとヤケドが心配</li> </ul> <p><b>○今の家の造りに合わない</b> 5件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高气密高断熱の家では、薪ストーブが採用できるか疑問。煙突の穴を開けるのも細心の注意が必要。気密の良さが換気を妨げる。</li> <li>・ 今ストーブを入れる設計で新築すれば別だが、今の家に入れるには大がかりなリフォームが必要。</li> <li>・ 部屋が乾燥し、柱などが変形する。</li> <li>・ 土間などがなく置く場所がない。</li> </ul> <p><b>○手間や労力がかかり大変、不便</b> 17件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山の手入れは面倒、薪の調達・管理も大変。</li> <li>・ 薪割・焚きつけ・灰の不始末等が大変、億劫。</li> <li>・ 開閉のたびに埃が出る。</li> <li>・ 毎日のストーブの掃除が大変、灰がこぼれる。</li> <li>・ 薪小屋を作るスペースもない。</li> <li>・ 薪を運ぶのは重くて大変。</li> <li>・ 年を取れば体力的に薪割が難しくなる。</li> <li>・ 石油やガスの便利さに慣れたら戻れない</li> </ul> <p><b>○薪の入手不法・保管方法が分からない、難しい</b> 4件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薪の入手が難しいと聞いていた</li> <li>・ 薪がどこで入手出来るかわからなかった。</li> <li>・ 薪の保存方法がわからない。</li> </ul> <p><b>○その他</b> 8件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 練炭に買えた</li> <li>・ 煤が出る</li> </ul>	<p><b>○薪ならではの暖かさ・気持ちよさ</b> 15件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柔らかい、陽だまりのような暖かさ</li> <li>・ 遠赤外線暖かさ、体の芯から暖まる。</li> <li>・ 火を見ていると気持ちが休まる</li> <li>・ 薪ストーブ1つで2階まで家全体が暖まる。</li> <li>・ 日中留守なので薪ストーブは夜しか使わないが、夜使えば翌朝まで暖かさが残る。夜に燃さない朝とても寒い。</li> </ul> <p><b>○薪ストーブはステイタス</b> 5件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 優雅なイメージがある。その家の顔になる</li> <li>・ 新築するとき、薪ストーブを取り入れた洋風な家を造りたいという思いで建てた。</li> <li>・ 薪を利用していることで、歴史のある家だねと言われる。</li> </ul> <p><b>○コミュニケーションの場になる</b> 3件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 玄関に薪ストーブが置いてあると、お客がゆっくりしていく。</li> <li>・ 薪ストーブはコミュニケーションの場になる。</li> </ul> <p><b>○火力が強く料理がおいしくできる</b> 2件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 火力はガスより強い。</li> <li>・ 煮豆料理等、柔らかく美味しく煮る事が出来る。</li> </ul> <p><b>○煙の効果</b> 1件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 煙で室内が燻されて真っ黒になると、雨漏り等も防ぐことが出来る。</li> </ul> <p><b>○備えとして</b> 2件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不測の事態に備えて</li> <li>・ 停電した際にダルマストーブを出した。暖房、料理、風呂など一通り使えたので助かった。薪があると、停電や災害時に便利だと感じた。</li> </ul> <p><b>○資源活用と温暖化防止に貢献</b> 2件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域材を活用することでCO2の排出削減に貢献出来る。木質エネルギー利用は、個人で出来る、地道だが温暖化防止に向けた初めの一步。</li> </ul>



薪を利用していることで、歴史のある家だねと言われる。暖かさが違う。お客がゆっくりしていく。火力が強く煮豆などが柔らかくおいしくできる。

## (8) 薪の導入の要件、普及に関する意見

村内で薪利用を推進していくために必要な仕組みづくり等について、自由に意見をうかがいました。

普及促進に関しては、薪を手頃な価格でいつでも購入できるようにし周知する（村内の取扱業者マップの作成、乾燥した薪がいつでも買える販売所の設置等）、森林所有者と薪利用者をつなぐ需給調整の仕組みづくり、薪ストーブの実演展示と情報提供、薪ストーブ導入に関わる経費の補助、アフターサービス体制の整備、といった意見が寄せられました。

一方で、薪の利用は不便であり、場合によっては石油よりも高価になってしまうこと、勤め人の場合は薪の調達・火や灰の管理は無理、好き嫌いの問題であり仕組みがあっても普及には資さないだろう、といった意見もありました。

また薪以外の方法（ほだ木やエクステリア用木材等）での木材活用を考えるべきという意見や、木材活用よりも太陽光発電や景観形成に力をいれるべき、等、様々な意見をいただきました。

### <主な回答コメント>

#### ○総合

- ・ 薪を導入する条件として、
  - ① 自前で薪を調達出来る
  - ② その家の男性が、薪割、ストーブの手入れが苦にならないこと。
- ・ 薪を日常生活に取り入れるためには、
  - ① 薪が簡単に手に入ること。
  - ② 薪の値段が安くなること。
  - ③ 薪の調達、薪割等の力仕事はその家の男性がそれらの仕事が苦でないこと。
- ・ 薪の利用を促進するために必要なことは、
  - ① 着火、消火が簡単な最新式の薪ストーブの開発
  - ② ストーブが安価に手に入ること
  - ③ 村の支援

#### ○薪を手頃な価格で入手しやすくすべき 16件

- ・ 薪の販売はどこで、いくらで販売しているかを明示した、村内の取り扱い業者のマップを作成してはどうか。情報が人づてにしか伝わって来ない場合が多い。人によって販売金額がまちまちなのもおかしい。
- ・ 村内で薪を販売しているなら、もっと宣伝した方が良い。知らない人もいるはず。
- ・ 薪がリーズナブルな値段で買うことが出来ること、至る所で購入出来るような状況が整うこと。
- ・ 村内に薪小屋を設置し、乾燥済みの、すぐに使用出来る薪を用意し、いつでも買えるようにする。
- ・ 村内に、薪の自販機があれば良い。
- ・ 薪が石油よりも安価で、かつ安定的に入手出来るならば、使用してみたい。
- ・ 安くなればもう少し普及すると思うが、山林労働の対価を考えるとそんなに下げられない。
- ・ 薪をまとめて購入するシステムがあれば、薪の単価が下がるのではないかな。

#### ○資源の有効活用と需給調整の仕組みづくり 6件

- ・ 森林所有者で伐採した木を人に譲りたい場合もあるから、森林所有者と薪を欲しい人との間で需要と供給のバランスがうまく取れれば良い。循環システムがあると良い。
- ・ 山を手入れして欲しい人と業者とのマッチングをして、間伐材が薪として流通する仕組みづくり。
- ・ 地産地消のように、地元の木が地元で利用されるようになれば良いと思う。
- ・ 世田谷で人材バンクのようなものを作っては？都市から棚田オーナーやレンタアップルのように、農作業や山の作業をする人を集めて、自分達で収穫する仕組みをつくってはどうか。

### ○山の手入れの推進

- ・ 山を390ha所有しているが、ボランティアが手入れをしてくれれば、手入れの際に出る間伐材は、あげても良い（但し、自分で山から運んでくれればの話だが）。
- ・ 山の所有者が森林組合に人夫賃を支払って、薪出しをしてもらえると良い。
- ・ 林業従事者の育成。
- ・ 水上地区は、ナラ枯れが発生し始めている。広葉樹を切る需要が増える。

### ○薪ストーブの実演展示と情報提供 7件

- ・ 自宅には、薪ストーブを入れたいと言う人が、時々見学に来る。希望者は案外多いのではないか。
- ・ 薪ストーブを常時展示していて、希望者がいつでも現物を見て、体感出来たり、質問に答えてくれたりする場所を作った方が良い。カタログを見ただけでは決められない。細かいことを色々と質問して納得出来なければ、簡単には薪ストーブには切り換えられないだろう。
- ・ 実際に使用しているお宅にお邪魔して、メリット、デメリットを話してもらえば良い。
- ・ 昔の薪ストーブのイメージが根強く残っていて、便利な今の薪ストーブのことが知られていない。今の薪ストーブは安全性・快適性が備わっている。快適さを、皆がもっとわかれば良いのだが。

### ○薪ストーブ等の初期費用の補助・軽減 8件

- ・ 薪ストーブの購入に対し、自治体等から補助金を出して個人負担を軽減する。
- ・ 村で業者から一括で購入することにして、村民が特別価格で買えるようになれば良い。
- ・ 高価なストーブの半額分くらいの補助金が出れば良い。
- ・ 薪割機についても補助金が出ると良い。

### ○薪ストーブのアフターサービス体制とメンテナンスの補助

- ・ 煙突の掃除には、30,000円ほどかかる。メンテナンスについての補助もあると良い。
- ・ 薪ストーブを導入した後のメンテナンス等の窓口があると良い（煙突の手入れ、薪の入手方法等）。
- ・ メンテナンスは、村内の利用者をとりまとめておいて、業者が同じ日に村内を回ることで、点検
- ・ 費用が割安で済むようになれば、少しは個人負担が減るのではないか。
- ・ 村は、今後、薪利用を推進していくという確固たる信念が必要。

### ○薪以外の木材活用の視点

- ・ 薪だけでなく、炭も含めて利用を促進するようにした方が、利用者は増えるのではないか。
- ・ 雑木林は、薪よりも椎茸類に利用した方が良いのではないか？
- ・ 銘木を育てたり、エクステリア用の木材加工品開発等、木材に付加価値を付けるよう方向転換した方が良い。

### ○木材活用以外の視点

- ・ 薪割作業や薪材の調達等は勤め人の家では無理。薪は石油より高い。利用が増えるとは思えない。
- ・ 好き・嫌いがポイントであり、値段が下がったり気軽に買っても利用が増えるとは思わない。
- ・ 地域材の活用 = 薪の利用 に結びつけるのは安直。
- ・ 薪が化石燃料の代替エネルギーになるより、太陽光発電を推進していった方が良い。
- ・ 木質系ストーブの設置で村から補助金が出ているが、村はもっと別の部分でお金を使うべき（美しく、統一感のある村の景観づくりにお金を使うべき）。